

【はじめに】

令和3年8月より、電気ショックボタンを有さないAED（以下「オートショックAED」という。）の製造販売が開始されることを踏まえ、厚生労働省より、従来の電気ショックボタンを有するAEDとの相違点、使用上の注意点などの情報提供の徹底についてとりまとめられました。

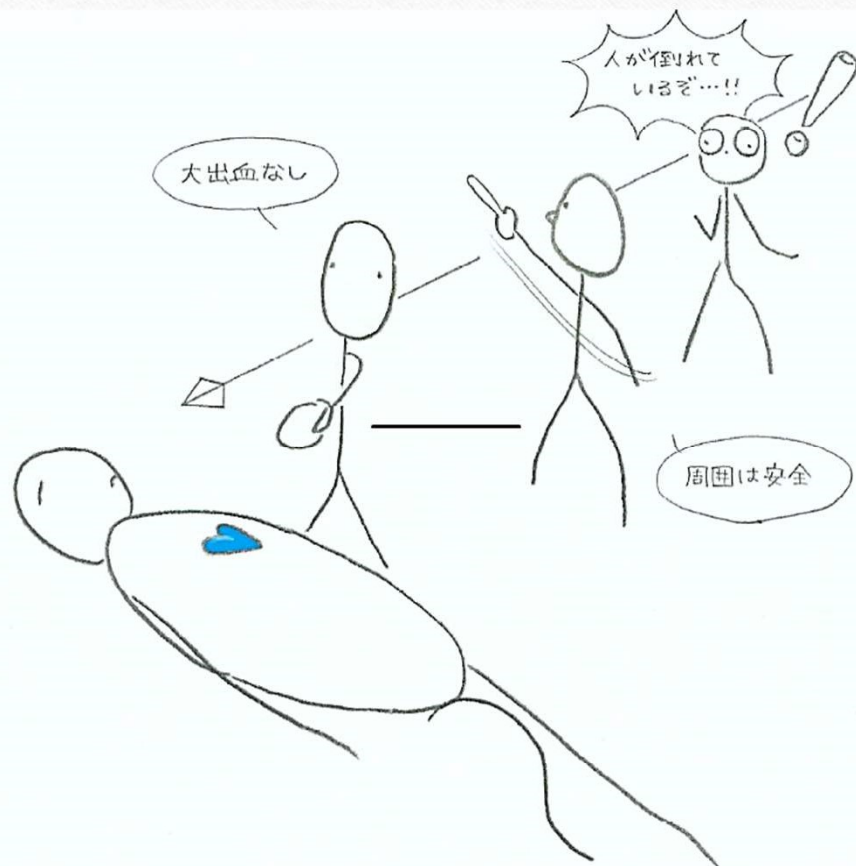
今回、製造販売の承認を取得した機種のアEDは、救命手当実施者が電気ショックボタン操作を必要とせず、傷病者に適切なタイミングで、自動的に電気ショックを与えることができる機種で、処置が遅れるリスクを低減させるのが主旨とされます。

今後、みなさんが行う救命手当において、オートショックAEDが使用される可能性がありますので、取扱いや注意点を説明します。

※傷病者＝患者のことを指します。

突然人が倒れた！！
あなたならどうしますか！？

【心肺蘇生法（CPR）とオートショックAEDの取扱い】



【倒れている人や、 具合の悪い人を見つけたら】

- まず、傷病者に近づく前に、周囲の状況を確認し、安全を確かめてください。危険があれば人を集め安全な場所へ移動しましょう。
- 近づきながら、大出血が無いか確認します。大出血があれば、ゴム手袋をするなど感染防止に注意をしながら、きれいなタオルなどで圧迫止血をしてください。

【反応の確認】

- まずは肩を軽くたたきながら呼びかけ、返事や目的のある体の動きを確認します。
- これを3回ほど繰り返しますが、最後は強く叩いて刺激を与え確認してください。



【助けを呼ぶ】

反応がなければ、大きな声で助けを求めます。



周囲から協力者が来たら・・・

「人が倒れています。**意識**がありません。」

「あなたは**119番**に電話して**救急車**を呼んでください。」

「あなたは**AED**を持ってきてください。」

と具体的に依頼します。

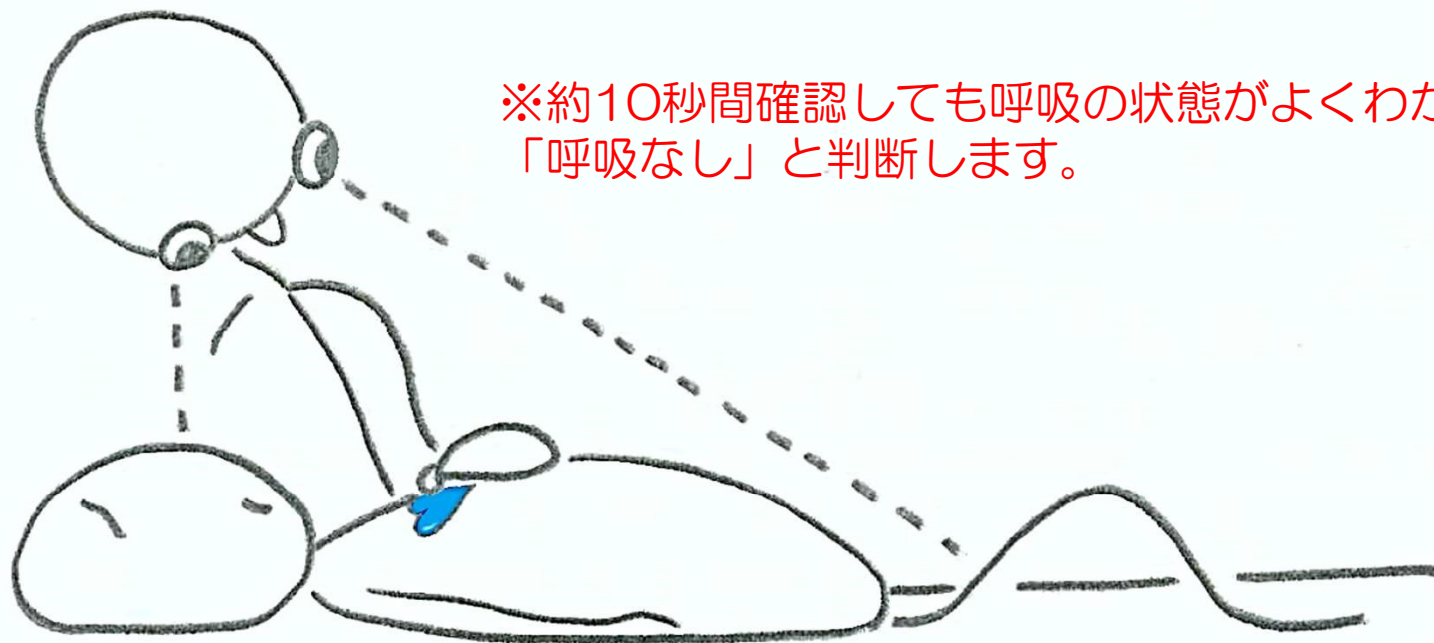


※周りに協力者がいなければ自分で119番通報をし、
AEDが近くにあることがわかっている場合は、自分で取りにいでください。

【呼吸の確認】

普段どおりの呼吸をしているか確認します。
10秒以内で胸やお腹の上がり下がりを見て判断します。

※約10秒間確認しても呼吸の状態がよくわからない場合は
「呼吸なし」と判断します。



【胸骨圧迫（心臓マッサージ）】

普段どおりの呼吸がないと判断したら、
ただちに胸骨圧迫を開始します。

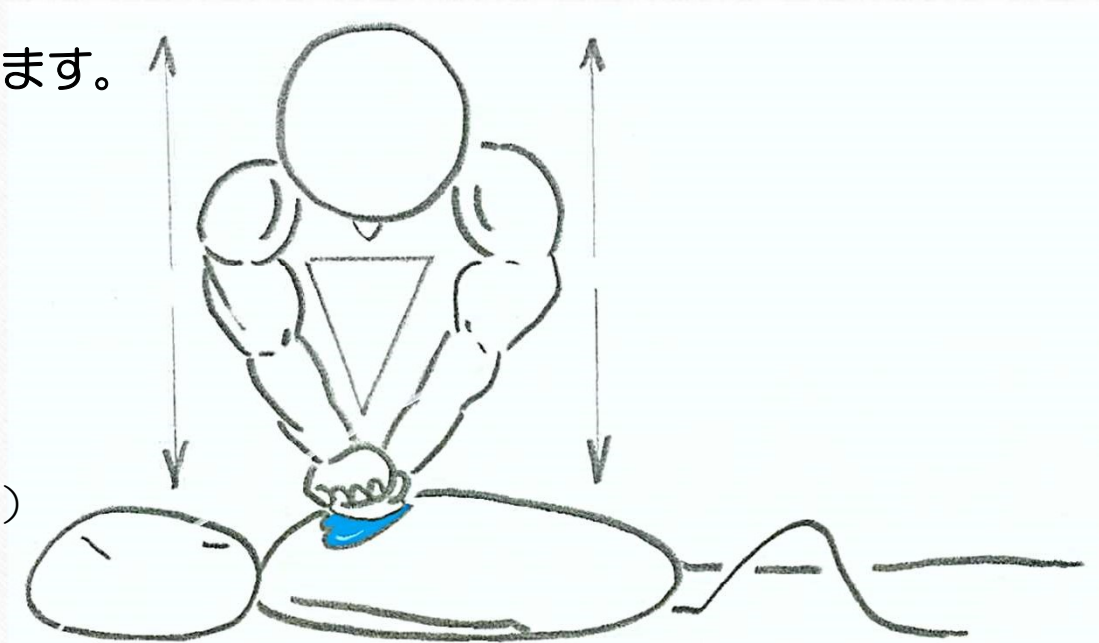
- 胸の真ん中を手の付け根で圧迫する

強く！（胸が約5cm沈むほど強く圧迫）

速く！（毎分約100～120回のテンポで）

絶え間なく！

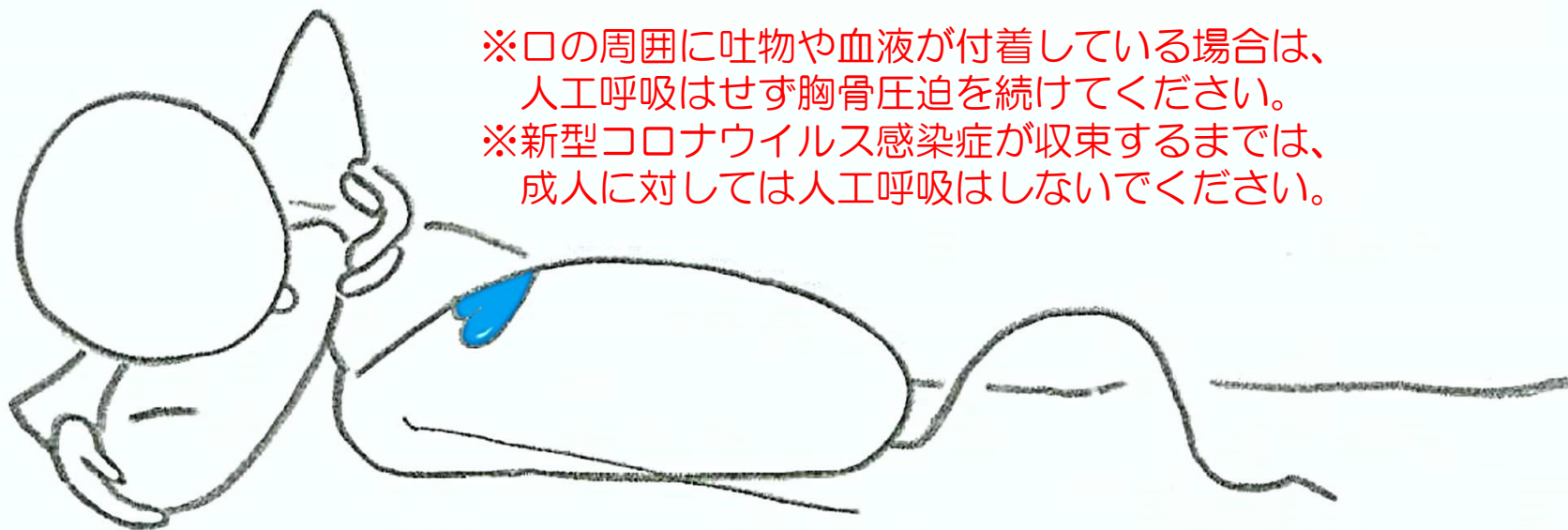
（危険の回避やAEDの準備をするなど、
やむを得ない場合以外は中断時間なるべく短くする）



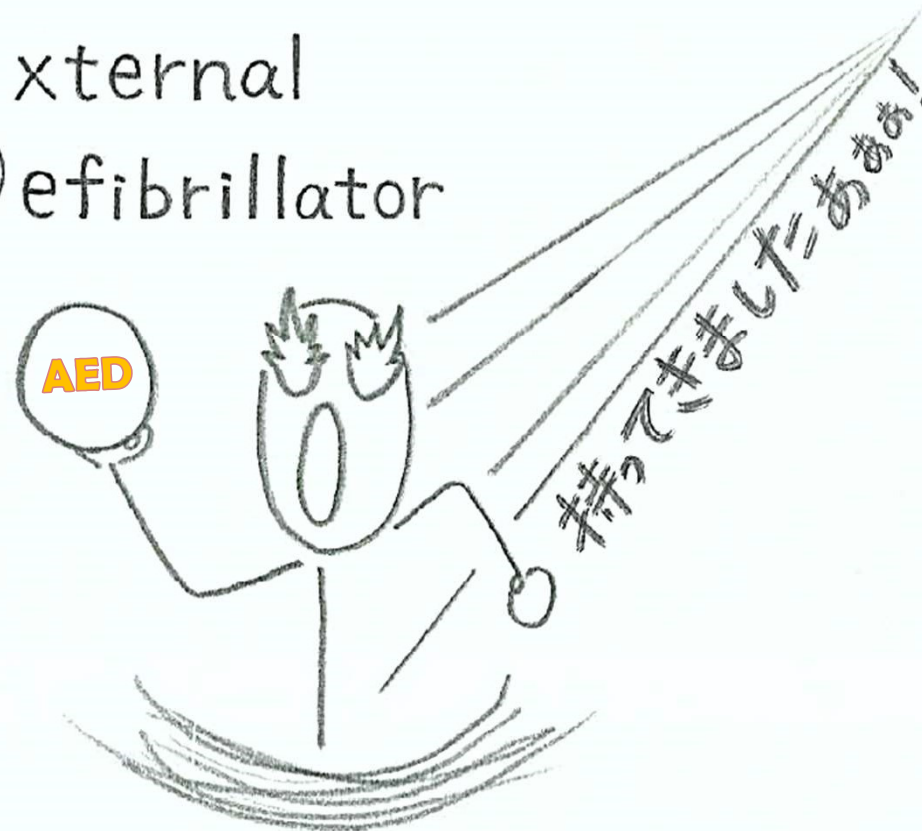
【気道確保・人工呼吸】

30回の胸骨圧迫が終わったら、
直ちに気道を確保し人工呼吸を行います。

※口の周囲に吐物や血液が付着している場合は、
人工呼吸はせず胸骨圧迫を続けてください。
※新型コロナウイルス感染症が収束するまでは、
成人に対しては人工呼吸はしないでください。

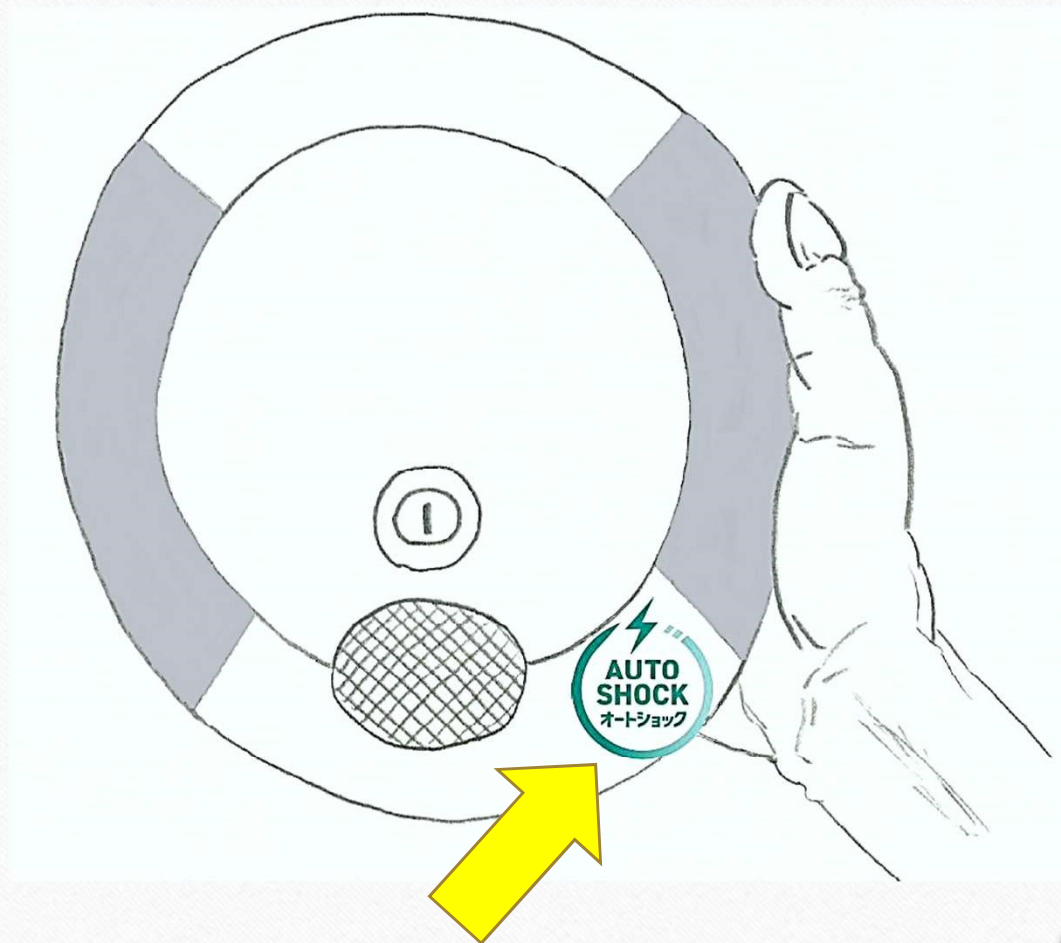


Automated
External
Defibrillator



使用するAEDがオートショック
AEDであった場合は、右の絵の
とおり、「オートショックAED
ロゴマーク」のシールが張り付け
てあるので、見分けることができ
ます。

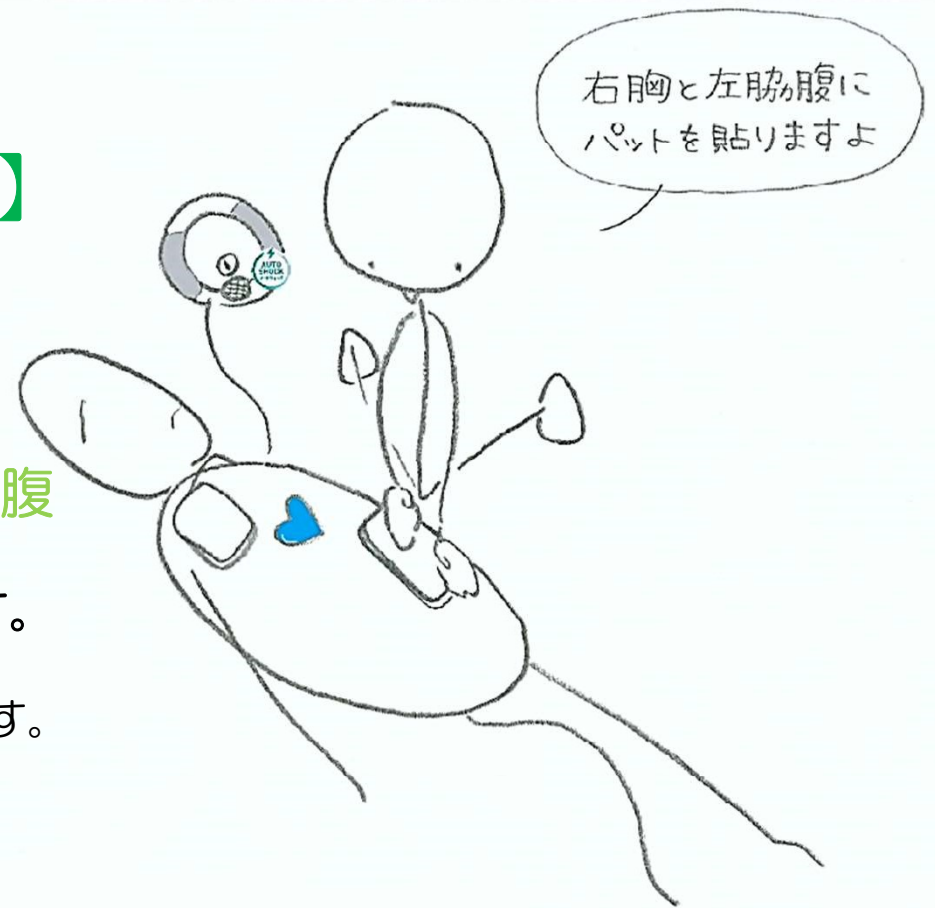
※オートショックAEDには、
電気ショックボタンがありません。

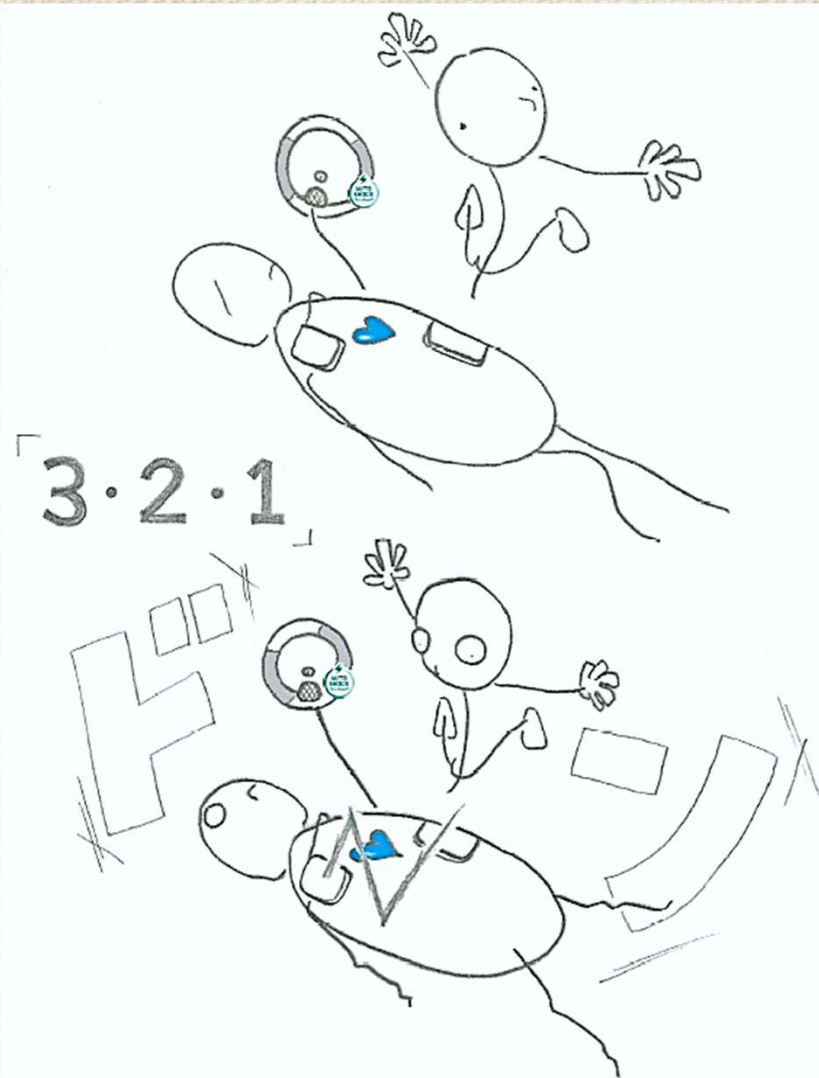


【オートショックAEDの使用】

AEDが届いたら、直ちに電源を入れます。
衣服を脱がせて、胸をはだけてください。
パッドを取り出し、傷病者の素肌の**右胸**と**左脇腹**
に貼り付けます。
パッドは傷病者の素肌にしっかりと押し付けます。

※小児用パッドがない時は、成人用パッドを使用します。





※パッドを貼り付けた後、電気ショックが必要な状況では、次のような音声がかかります。

『心電図を調べています。患者に触れないでください』

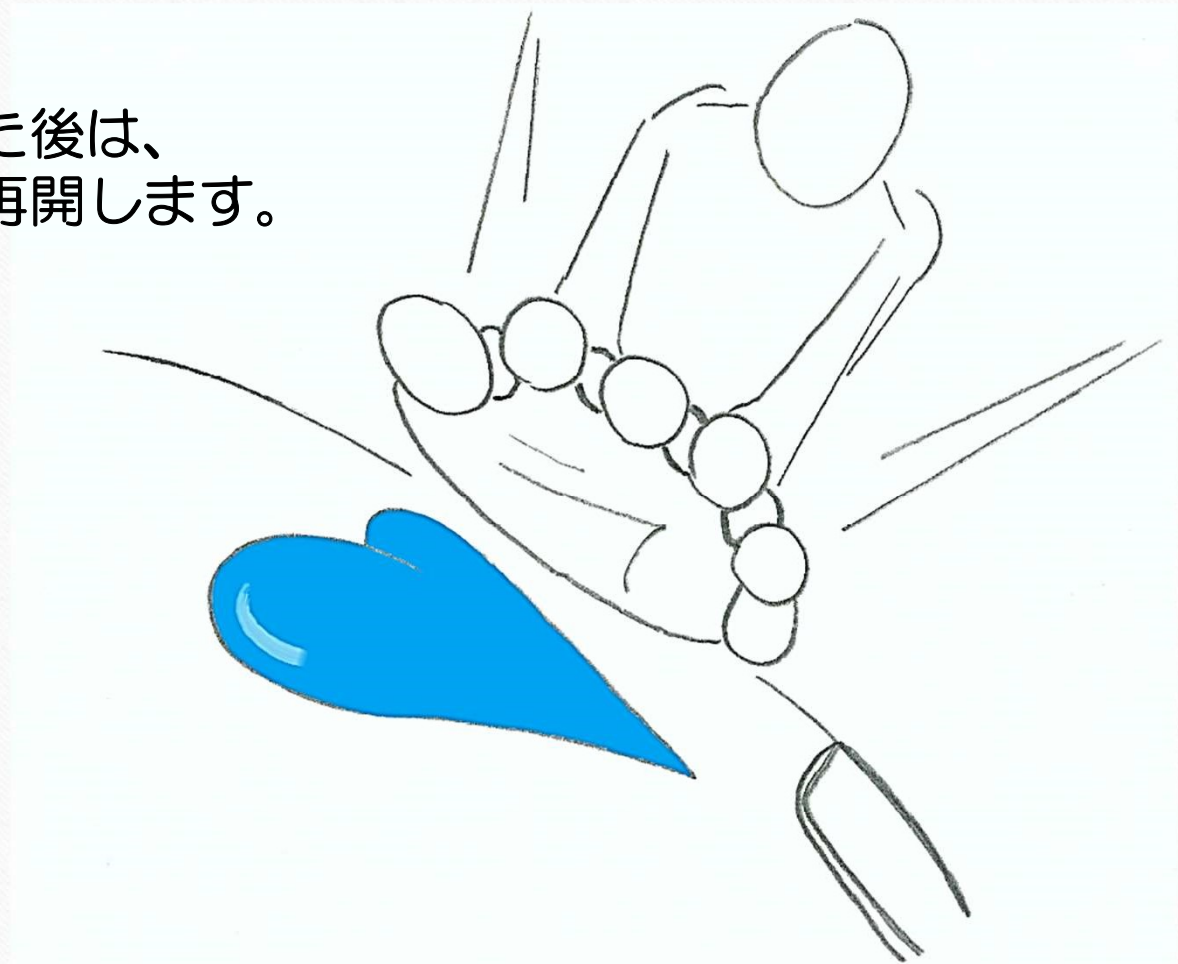
『患者（傷病者）から離れてください。
電気ショックが必要です』

『患者（傷病者）から離れてください。
電気ショックを行います』

『3・2・1』

『電気ショックが行われました。
心肺蘇生を始めてください。
患者（傷病者）に触れても大丈夫です』

電気ショックが実施された後は、
直ちに胸骨圧迫を再開します。





—— 自分の目の前で人が倒れているのを目撃したら、あなたの手を貸してください ——

1 電気ショックボタンを有するAEDとオートショックAEDの相違点

(1) 電気ショックボタンを有するAED

傷病者の胸部に電極パッドを貼り付けると、自動的に心臓の動きを調べ、電気ショックの要否が判断されます。

電気ショックが必要と判断された場合には、傷病者から離れるよう音声ガイドが流れ、電気ショックボタンを押すよう音声ガイドが流れます。

傷病者に接触している人がいないことを確認した後、救命手当実施者が電気ショックボタンを押すことによって、電気ショックが実施されます。

(2) オートショックAED

傷病者の胸部に電極パッドを貼り付けると、自動的に心臓の動きを調べ、電気ショックの要否が判断されます。

電気ショックが必要と判断された場合には、傷病者から離れるよう音声ガイドが流れ、カウントダウン（例：スリー、ツー、ワン）またはブザーの後に、電気ショックが実施されます。

2 オートショックAEDの使用上の注意点

現在に至るまで、救命講習などを受講した救命手当実施者は、オートショックAEDを使用する際、電気ショックボタンが存在しないことに混乱するおそれがあります。

また、救命手当実施者が電気ショックの際に傷病者から離れることが遅れた場合、

放電エネルギーにより感電するおそれがあります。

3 まとめ

- (1) 使用するAEDがオートショックAEDであった場合、「オートショックAEDロゴマーク」のシールが貼り付けてあります。
また、オートショックAEDロゴマークは、救命手当実施者などが視認しやすいよう配慮されています。
- (2) オートショックAEDには電気ショックボタンが存在しません。

今後、救命手当にあたっている現場において、心肺蘇生法を実施中にAEDが届いたら、まず、「オートショックAEDロゴマークのシールが貼り付けてあるかどうか」または「電気ショックボタンがあるかどうか」をよく見て確認してください。

AEDを正しく取扱い、心肺蘇生法を組み合わせることで、救命率の向上に繋がります。
みなさんの手で、「救命のリレー」の輪を広げていきましょう。